

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770200814	
法人名	特定非営利活動法人カオス	
事業所名	認知症対応型共同生活介護グループホームこすもす	
所在地	福島県会津若松市神指町大字黒川字湯川東228番地	
自己評価作成日	平成30年2月13日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成30年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気大事にしつつ、入居者の方お一人お一人の生活のリズムや出来る事、出来る事への視点を大切にしながら、家事活動やレクリエーション等で力を発揮していただいています。入居者の方の気持ちの波にも心から寄り添う姿勢を忘れる事ないよう心がけ、職員一人一人の持ち味を活かしながら、常に自分達のケアを振りかえつつ生活を共にさせていただいています。日々の生活の中での入居者の方の体調面、心情面での気づきも職員間で情報を共有し、医療関係者と連携しながら、その時のその方に合ったケアをさせていただくよう努めています。食事に関しても、季節感やバランス、彩り、味、食感を、嚥下困難がありミキサー形態で召し上がってられる方も含め楽しんでいただけるような工夫を心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、職員の建設的、前向きな意見を受け止め、チームワークのとれた環境作りをたいせつにしている。職員は利用者支援に向けた個人目標を持ち、常に利用者へのサービスのあり方を考え、ケアの向上に取り組んでいる。職員が個人目標を定期的に振り返ることで、支援の充実に繋がり、利用者の穏やかな暮らしを支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念をいつでも確認できるように掲示しており、週一回のミーティング等で日々のケアを振り返り、時に論議しながら理念に基づいた実践につなげている。	理念を基にした事業所目標と職員一人ひとりの目標を毎年作っている。毎週のミーティングで理念と目標を確認することで共有を図っている。日々、実践状況を振り返り反省することで、支援の充実に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	広報誌の配布、地域の文化祭に参加、そこでの相談等も受け付けながら広報活動を行っている。ボランティアの方の活動、初任者研修の実習受け入れ等、地域の方々との交流の機会を設けている。 * 次年度より町内会加入の予定である。	市民が認知症理解を深めるために、認知症サポーター養成講座に、事業所を実習の場として開放している。中学生の職場体験も受け入れ、利用者も散歩や買い物時に地域住民と触れ合い、日常的にも地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サポーター養成講座にキャラバンメイトとして地域の方に認知症の方への理解を深めていただける様、講話、寸劇でわかりやすく伝えた。施設見学者や入居申込みの方の相談にも乗っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催。近況や課題等の報告をし、メンバーの方からの意見を取り入れ改善に向けて行動するよう努めている。さらなるサービスの質向上に活かしている。	会議では事業所の現状を報告し、抱えている課題などを相談している。冬の除雪車が除いた雪で、事業所入口が塞がり出入りが大変という事を、家族より市に連絡してくれて雪が溜まらないよう改善され、職員は利用者へのサービス向上に時間を有効に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点等ある時にはその都度、市の担当者に確認をしている。注意報や警報が出された後には、市の担当者の方から安全確認の電話をいただいております。	市高齢福祉課に事業所の広報紙を持参し、事業所の活動を定期的に報告している。家族が遠くにいる利用者の住所を事業所に移動しても良いか、といったなどを担当者に相談して、サービス向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては防犯の為、夜間のみ行っている。転倒予防、安全確認の為に離床センサーを設置しているが、行動制限をしないケアを心掛け、見守りする事の必要性を正しく理解しながらケアに関わっている。また言葉による拘束にも留意している。	グループホーム協議会の研修会や法人の勉強会に参加して情報を共有している。利用者の居室のカーテンにやさしい音色の鈴をつけて出入りを確認している例もあり、見守り体制に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市での研修会や社内での勉強会に参加し、様々な角度から虐待についても学ぶ機会を設けている。日頃のケアからも、虐待につながる危険性はないか、また、虐待になっていないかを振り返り、職員間で確認しながら防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会の参加や初任者研修の講師・職員個々でも資格取得を通して学ぶ機会がもてている。をまた、ご家族の方の相談にも対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書を用いて説明し、その際にも利用者の方、ご家族の方の意向を伺い、時には相談にものらせていただいている。 十分に理解していただいたうえで契約をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方からは日常生活の中で会話の場面などからご本人の意向、要望を伺っている。ご家族の方からは面会時などの来所された際や行事の後などで意見、要望を伺えるような体制を整えている。	家族からは、来所した時に意見や要望を聞いている。水害や災害の時の対応の話が出て、利用者の家族間の緊急連絡網をつくる事ができ、事業所の情報や連絡が密になり、運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週一回、事業所でのミーティングを行っており、職員一人一人が意見や提案を出せる場を設けている。出席できない職員は事前に意見を伝えている。また日常の会話等からも意見を聞き、反映させている。	夜勤担当職員より勤務内容の個人差についての意見があり、説明して納得してもらった事がある。老朽化による洗面所の水漏れなどの報告があり早急に対応して改善されたなど、職員の意見が言いやすい体制作りにも努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のレベル、キャリアに応じた評価表や社内研修を活用し、昇給、昇進を検討する際に反映させている。全体ミーティングの皆勤賞や各事業所で評価された職員への感謝状などは仕事の意欲に繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己評価表や日頃のケア、他のスタッフの評価などから実際の力量を把握し、職員一人一人のレベル、キャリアに合わせた法人内外の研修への参加の機会を設けており、その研修で得た知識を他スタッフと共有できるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括ケア会議やグループホーム協議会・社会福祉協議会等の研修参加や他事業所の見学等を通して交流を図っている。またそうした中で情報交換を行いながらサービスを向上させていく取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人及びご家族の方のお話を伺い心配事や不安な気持ちに配慮し希望に沿えるよう日々の生活の中で関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との会話の中でご本人の生活歴等を感じ、それに沿った支援を行い安心していただけるよう常日頃から関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査等でご本人やご家族が今現在必要としている支援を見極めるため一つ一つに耳を傾け対応に努めている。また、今まで利用されていた介護事業所職員からの情報を得る等して、介護の継続に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場の中で、入居者の方の経験を活かしていただき、その時の体験を通して学ばせていただいている。そうした中で暮らしを共にする者同士励みにもなっており関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご本人の日々の様子をお伝えしている。変化があった時はその都度電話で連絡している。またこれまでの生活歴から情報をいただきケアに活かしている事も報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等はご本人の居室にてゆっくりと会話を楽しんでいただけるよう配慮に努めている。また、馴染みの方の話題や写真・思い入れのある物を飾るなど、身近に感じていただけるよう関係継続の支援に努めている。	利用者の友人が来所した時は、居室やソファで共に寛いでもらえるように、お茶を出したりして見守るよう努めている。墓参りに行きたいなどの利用者の希望がある時には、家族に対応してもらったり、職員がドライブを兼ねて同行するなどの支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方々の関係性を把握し座席の位置の工夫している。時には職員が間に入り会話の橋渡しをする等配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後に病院等に面会に行くなど関係性を大切にしている。亡くなられた利用者の方のご家族が、その後も庭の手入れや除雪などのボランティアに来て下さる関係がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話、行動、表情等から意向の把握に努め気づいた点は記録し情報を共有。必要に応じてカンファレンスを行っている。	利用者の中に、夕方になると時間が気になり落ち着かず動きまわる人がいて、職員が近くまで散歩に行き落ちていたりした事があり一人ひとりの思いや行動の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の介護サービス事業所等の担当者からの情報やご家族の方からお伺いするエピソード等、記録や口頭で職員間で共有し経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を記録し、アセスメントを活用しながらお一人お一人の状態の把握に努めている。また定期的にモニタリングを行い検証を重ねている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的又は変化がみられた時にモニタリングを実施し職員全員で共有している。ご本人の想いやご家族の意向を伺い常にケアの振り返りを行いながら介護計画に反映している。	利用者の日々の記録を担当者が記入して、定期的に見直しをして他の職員の意見も聞きながら、情報を反映させ介護計画を作成している。かかりつけ医や家族の意見も参考にして介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきを大切にしている。積極的に発信しその都度カンファレンスを開きお一人お一人のその時の状態に応じたケアの実践・評価・見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関や他事業所との連携を深めつつ情報収集やサービスの向上を目指している。ボランティアの方に来ていただくなど、地域との繋がりが大切になっている。その時々々の身体状況に応じてご家族と相談しながら福祉用具の活用も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議・地域包括ケア会議など地域の方との話し合いの場を持ち、ご近所との関わりなど色々な方面から情報を得、活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族の方の希望を大切に、かかりつけ医を選択していただいている。受診時には報告書やご家族の方を通じて状態報告をし、受診後はその際の様子も含めてご家族から受診結果の報告を受け適切な医療を継続していただけるよう支援している。	受診は家族に対応してもらい、利用者の状況に関する情報は、事業所に連絡してもらい共有している。隣のかかりつけ医は、往診にも対応していただき信頼関係を構築している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師が週一回入居者の方の健康状態をチェックし指示指導を受けている。状態変化時は隣接した協力医院のクリニックや訪問看護へ報告し適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に情報を提供し病院関係者と連携を図っている。入院中も面会を行いご本人との馴染みの関係が継続できるよう配慮しながら病院関係者と情報交換や相談に努めている。退院時は退院後の療養についてアドバイスを得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の支援について早い段階から可能な事や困難な事をご家族の方と話しあっている。ご家族の意向を確認し治療及び介護・看護を受けていただいている。看取りについては状況を見ながら文書をもって説明しご家族を含めたチームで心身共に苦痛の少ない終末期ケアを行えるよう努めている。	入居時に利用者と家族に事業所として対応できる事とできない事の説明をし納得してもらっている。利用者が食事がのどを通らなくなったり身体的衰えがみられたりしたら、医師と相談して家族も交えて話し合いをして最善の支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護ステーションの看護師による緊急時の事故発生時に備えた応急手当や初期対応等の勉強会を実施している。また、普通救命講習受講により知識・技術の習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し年に一回は消防署立ち合いのもと指導を受けている。新人職員が入職した際も教育訓練を行い周知徹底を心掛けている。	年2回避難訓練をしている。1回は消防署員の立会いで、指導を受けながら通報から避難、消火訓練を行っている。職員の意見で一次避難場所の駐車場に出る非常口にスロープを設け、速やかな避難に努めている。非常食の備蓄を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の方に対する尊敬の気持ちをもった言葉使い・行動を心掛けている。トイレ、入浴時にはバスタオル等で肌の露出を少なく出来るよう配慮している。	居室への入室の際には、ノックをして声掛けしてから入るようにして、汚れ物の確認などを行っている。利用者と呼ぶ時は、気づかいながら“さん”づけでさりげない言葉かけの対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	上手く言葉で表現出来ない方でも自己決定や選択ができるような声掛けを心がけている。入居者の方の発する言葉の裏側や心の声にも耳を傾けるよう努めている。表情・仕草・行動からもご本人の想いを汲み取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の生活スタイルや体調に合わせて無理なく負担のないように過ごしていただいている。日常の中で自己決定が出来るよう伺いながら希望に沿えるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えや入浴・外出の際に衣類を選んでいただく等ご本人の意向を取り入れる工夫を行っている。また、鏡の前での整容等を声掛けまたはお手伝いさせていただいている。定期的に美容師に訪問していただきご本人らしいおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備や盛り付け・片付け等楽しみながら取り組んでいただけるよう支援している。旬の食材や伝統行事等に合わせたメニューを提供し献立の説明や会話を楽しんでもらうながら食事をゆつくりと味わっていただけるような支援を行っている。	食材の皮むきや後片付けなど出来る範囲で手伝ってもらい、会話も楽しめるように努めている。差し入れられた季節野菜を活用し、利用者の希望もいれたメニューを取り入れ、おやつ時間にホットケーキや団子を作るなど、楽しい食事になるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼夜が同じたんぱく質にならないよう工夫している。毎回、主食・副食・水分の摂取量を記録しながら不足がちな方には代替のもので提供させていただいている。また、お一人お一人の状態に合わせ食事の形態に工夫し提供させていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い磨きが不十分な方にはご本人に確認しながらお手伝いさせていただいている。困難な方には歯ブラシ・スクラブ等を利用し清潔に務めている。義歯は就寝前に洗浄剤で消毒させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しお一人お一人のパターンの把握に務めている。プライバシー等に配慮し歩行練習や掃除の流れでトイレに案内している。また、トイレ動作の出来る事を確認しながら排泄の自立に向けた支援をしている。	出来るだけトイレでの自立した排泄に努めている。排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの動作に注意して、タイミングをみてトイレに誘導している。難しい人には2人に対応するなど、トイレでの排泄にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜・乳製品・海藻などバランスの良い食事に心掛けている。また、レクリエーションに腹筋に働くような体操や歩く活動等を取り入れたり、腹部マッサージを行ったり等して便秘予防に努めている。下剤については適宜調整し便秘・下痢による苦痛の緩和に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その方のタイミングや希望に沿って気持ち良く入浴入浴していただけるよう努めている。浴槽の出入りが困難な方にも出来るだけ負担のないように、おひとりお一人の状態に合わせてゆったりと温まっていたり出来るよう支援している。	毎日入浴できるようにしている。。前日に入浴ができなかった利用者には、入浴剤を使用したり工夫しながら楽しめるように努めている。季節感のあるゆず湯や菖蒲湯を楽しめるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活習慣を考慮しながら休息を取っていただいている。寝つけない方にはホールにてお話を伺ったり温かい飲み物を飲んでいただいたり安心して休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報が常時確認できるように個別の内服薬ホルダーに入れている。薬袋にも薬の名前を記入している。変更時にも作用副作用を記録しており変化観察を共有出来ている。服薬についてはおひとりお一人の出来る事・嚥下状態に合わせて安全に服薬していただけるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日頃の会話等のコミュニケーションの中からご本人のお思いを確認させていただき手作業・家事等を職員と一緒にさせていただいている。楽しみながら活き活きとした生活を送っていただけるよう支援している。また、誕生会や季節の行事も楽しんでいただけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食料品の買い出しや天候の良い日はドライブ等に出かけている。近所のクリニックや六中までの散歩等、入居者の方の希望に沿った外出支援を行っている。	天気の良い日は近くを散歩したり、スーパーでの買い物では近所の人との会話を楽しんでいる。花見やもみじ狩りなど季節に応じてドライブに出かけ、家族の協力を得て外食を楽しんだり、日常的な外出に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことへの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族の希望でお金を所持していただいている。買物に同行していただいた時に購入したい物や食材を選んでいただく等してお金を使用する事を身近に感じていただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方からの電話等は、いつでも取次お話しできるよう支援している。手紙についてはご本人にお渡し又はご家族に報告しており、やり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾り付けなどで季節感を採り入れている。適温適湿に努め、掃除機などの生活音は極力控え目にし騒音とにならないよう注意している。光が刺激にならないようカーテンやブラインドを調整し居心地良く過ごせるよう心がけている。	高い位置からの光が良く入り、利用者には明るく穏やかな空間になっている。ロールカーテンを使い、光量を調節しながら四季折々の中で、利用者が居心地良く過ごせる工夫をしている。エアコン、加湿器などで温度や湿度を調整して利用者の健康に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の方同士の相性や関係性を考えながらテーブルの席やレク時の位置などを考慮し、状況に応じた居心地の良い空間作りに努めている。廊下にソファや椅子を配したことで入居者の方同士や家族の方、職員とゆったり過ごせる空間となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	今まで使用していた家具や馴染みのものを、ご本人や家族の方と相談しながら居室に配置し居心地の良い安心してゆったりと過ごしていただける環境となるよう配慮している。	居室には、利用者一人ひとりが使い込んだ馴染みの家具を持ち込んでいる。家族などとの思い出の写真が飾られ、人形やぬいぐるみ、趣味の道具など思い思いの品々を配置し、安心して寛げる空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の飾り棚や洗面棚など、お一人お一人色分けしており出来るだけ戸惑いなく行動出来るよう工夫している。廊下や居室の移動空間は極力障害物を置かないよう注意している。		